



スターゼン
株式会社

決算説明会資料

2019年
11月26日

証券コード：8043

1. 2020年3月期第2四半期決算について

代表取締役副社長 永野 章

業績	2020年 3月期 2Q実績	売上高・利益ともに減少 売上高 : 1,725億円 (前期比 ▲0.9%) 経常利益 : 21億円 (前期比 ▲24.5%) ・輸入牛肉が減収し、全体の売上高減少 ・輸入豚肉は、価格上昇により利益率改善、加工食品は、新工場の費用負担を十分に回収できず利益率悪化 ・人件費、物流費は増加、売価への全面的な転嫁難が継続
	2020年 3月期 通期予想	売上高・利益ともに減少見込 売上高 : 3,480億円 (前期比 ▲0.9%) 経常利益 : 41億円 (前期比 ▲36.1%) ・引き続き厳しい事業環境の継続により、全体の売上高減少見込 ・物流費の売価転嫁や加工食品の販売を強化し、利益確保 ・ASF（アフリカ豚コレラ）や中国の買い付けによる輸入肉の相場上昇の影響が、当社業績に影響を及ぼす可能性あり

前期比較PL

(単位：億円)

	前期 (18/9)	対売上高 利益率 (18/9)	当期 (19/9)	対売上高 利益率 (19/9)	増減額	増減率
売上高	1,740		1,725		▲15	▲0.9%
売上総利益	150	8.7%	149	8.7%	▲1	▲1.0%
営業利益	20	1.2%	12	0.8%	▲7	▲36.4%
経常利益	27	1.6%	21	1.2%	▲6	▲24.5%
税前利益	27	1.6%	21	1.2%	▲6	▲24.1%
税後利益	18	1.0%	14	0.8%	▲4	▲23.6%

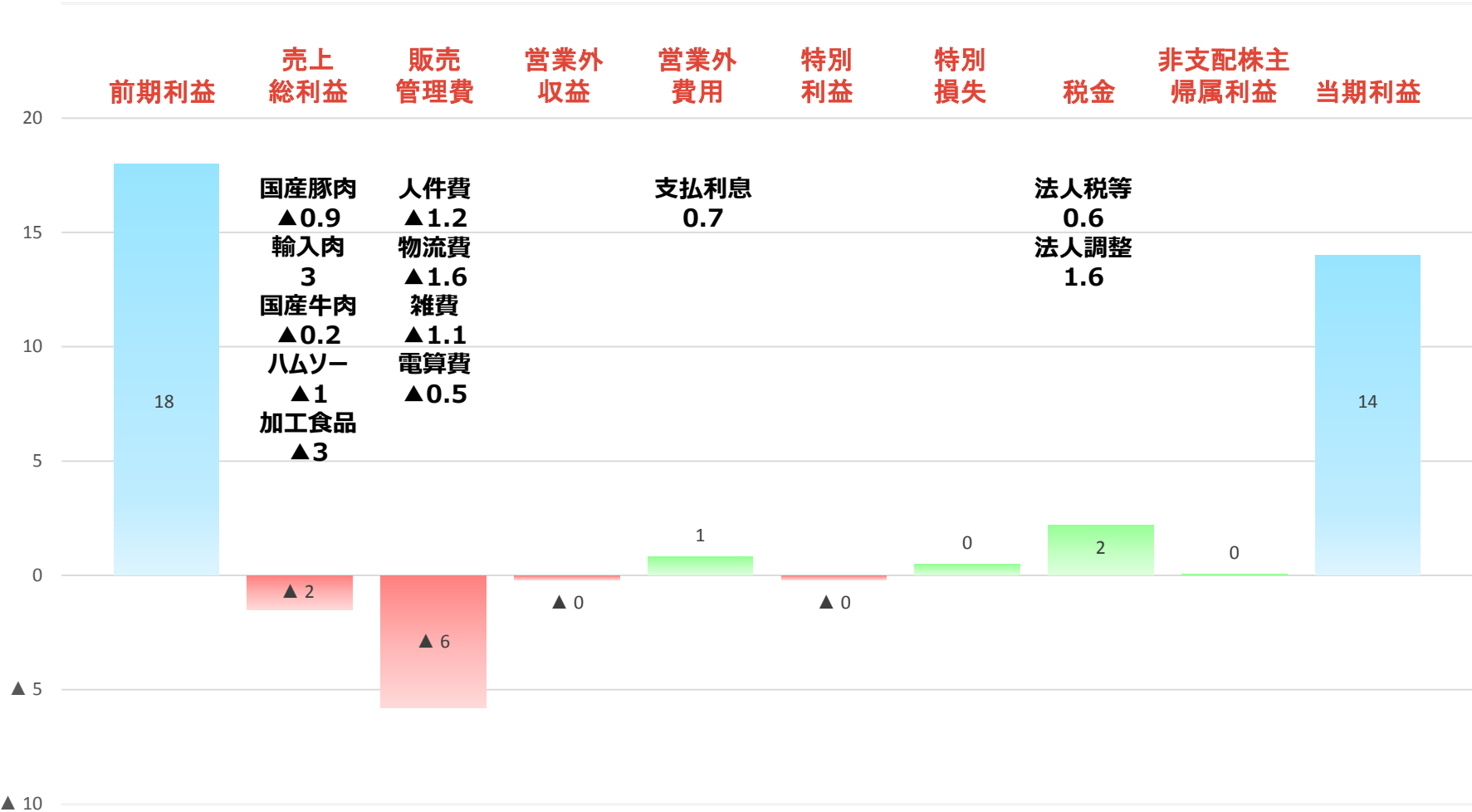
売上高（品目別）

（単位：億円）

	前期 (18/9)	当期 (19/9)	増減額	増減率	構成比
国産食肉	723	724	+1	+0.2%	42.0%
輸入食肉	671	652	▲18	▲2.7%	37.8%
加工食品	253	258	+4	+1.8%	15.0%
ハム・ソー	70	65	▲4	▲6.7%	3.8%
その他	22	24	+1	+6.8%	1.4%
計	1,740	1,725	▲15	▲0.9%	100.0%

損益増減要因概要

(単位：億円)



2. 事業環境と通期業績予想について

A 世界的トレンド

- ・ASF(アフリカ豚コレラ)拡大
- ・食肉需要の増加
- ・代替肉の台頭

C 国内消費

- ・今期の天候不順
- ・消費税増税(外食10%)
- ・年金2,000万円問題
- ・国内CSF(豚コレラ)
- ・消費者心理の冷え込み

当社への影響

- ①物流費・人件費高騰・・・D
- ②仕入れコストの上昇・・・A B
- ③コスト増加分の価格転嫁の停滞・・・C
- ④国産牛、国産豚の価格高騰による
販売不振・・・C
など

B 貿易関係

- ・TPP11、EPAの発効
- ・日米貿易協定(TAG)
- ・米中貿易問題

D 構造的課題

- ・人手不足
- ・ライフスタイルの変化
- ・人口減少、高齢化

2020年3月期 通期業績予想



(単位：億円)

	下半期予想 ①	前期下半期 実績 ②	前期下半期 対比 ③=①÷②	通期予想 ④	前期通期 実績 ⑤	前年通期 対比 ④÷⑤
売上高	1,754	1,771	99.0%	3,480	3,512	99.1%
営業利益	13	27	47.4%	26	47	54.3%
経常利益	20	36	55.0%	41	64	63.9%
税後利益	13	27	51.1%	28	45	61.3%

・下期減収減益要因（予想）

- ①国産および輸入牛肉は仕入価格の高止まりが継続。輸入豚肉はASF(アフリカ豚コレラ)等の影響により仕入価格が上昇。
- ②加工食品において、新工場の費用負担について十分な回収が見込めず利益率悪化。
- ③人件費や物流費の増加が継続。

1. ローストビーフの販売拡大

- ・12月商戦に向け積極的商談を実施



- ・昨年より受注量増加

2. ハンバーグの販売拡大

- ・手薄だった小売に向けた商談を実施



- ・自社NB商品のすそ野を拡大

3. 国産豚の拡売

- ・CSF(豚コレラ)ワクチン接種で供給が安定＝価格安定



- ・販売しやすい環境＝収益の改善が見込める

3. 来期以降に向けた施策・取組について

◆中国食肉マーケットへの進出◆

輸入食肉のニーズが高い中国市場開拓のため三井物産と中国現地パートナーと合併会社を設立しました。

◆三創商貿企業情報◆

【所在地】

中華人民共和国広東省深セン市

【事業内容】

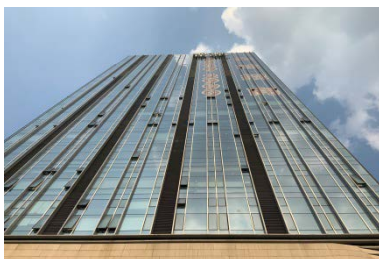
畜産・水産品等の卸売および加工販売、酒類等の卸売

【出資比率】

当社25%、三井物産55%、中国現地パートナー20%



社名ロゴ



事務所入居ビル外観



開所式にて
左) 弊社代表取締役会長兼社長 中津濱
右) 三井物産 吉川常務執行役員
中) 中国現地パートナーXing社長

◆米国向け国産牛肉の輸出拡大◆

日米貿易協定の発効による米国の日本産牛肉向け低関税輸入枠の実質的拡大に伴い、販売体制の強化を図ります。

現 状

低関税輸入枠 = 200 t ※ / 年間

※日本産牛肉向け輸入枠

(昨年の米国の輸入実績：約421 t、約33億円)

実質拡大

協定発効後

低関税輸入枠 = 約 6 万 5,000 t ※ / 年間

※国を特定しない輸入枠

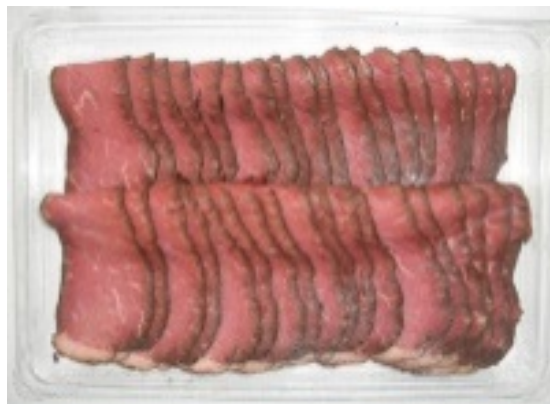
実行施策

- ①西海岸 = スターゼンアメリカの人員増強による販売体制強化
- ②東海岸 = 米国での販売協力会社の獲得



◆プロセスセンター機能を有する新しいタイプの営業所設立◆

東北エリアのお客様の食肉製品群のスライス加工ニーズに応えるため、仙台にプロセスセンター機能を有する新しいタイプの営業所を新設します。



※上記写真はイメージです

◆ 関東地区の物流網の構築 ◆

物流費の高騰に対応するため、最大商圈である関東エリアの物流の効率化を積極的に進めます。

現状

- ・複数の在庫拠点・中継拠点が点在
- ・同一仕向け地に対し、在庫拠点から直送するケースと中継拠点を經由するケースが混在



目指す姿

- ・集荷、配送の**拠点を有効に活用**
⇒総物流コスト(輸配送コスト、拠点コスト等)が最小となる**中継拠点を新たに設置**
- ・巡回集荷による**一括配送**を実施

◆食肉処理・加工工場の機械化・省人化推進◆

本年9月、鹿児島県加世田市の食肉処理加工工場に、豚肩甲骨・上腕骨除骨ロボット「ワンドスミニマークⅡ」を導入しました。

■ 2019年11月26日現在の除骨ロボット導入実績

ハムダス-RX

導入工場：三沢ポークセンター（青森県）
阿久根工場（鹿児島県）

計2機



ワンドスミニマークⅡ

導入工場：三沢ポークセンター（青森県）
加世田工場（鹿児島県）

計4機



◆組織再編の推進◆

子会社をスターゼンに統合し、意思決定のスピードアップを図り、業務効率化を推進しています。



◆ICT技術への投資◆

業務プロセス改革

意思決定の迅速化、競争力の強化、生産性の向上を図り、収益の改善に向けてICT技術を最大限活用し、業務プロセスの見直しを強化・推進します。

基幹システム再構築

当社グループの個社の事業特性や強みを活かし、また業務効率向上に寄与するために、柔軟性・拡張性をもった基幹システムを構築しグループの事業発展に貢献します。

データの利活用に向けた情報管理基盤の構築

経営管理の情報源として必要な情報管理基盤を構築し、様々なデータを分析、利活用する事で意思決定の迅速化図ります。



決算説明会 補足資料

2019年
11月26日

証券コード：8043

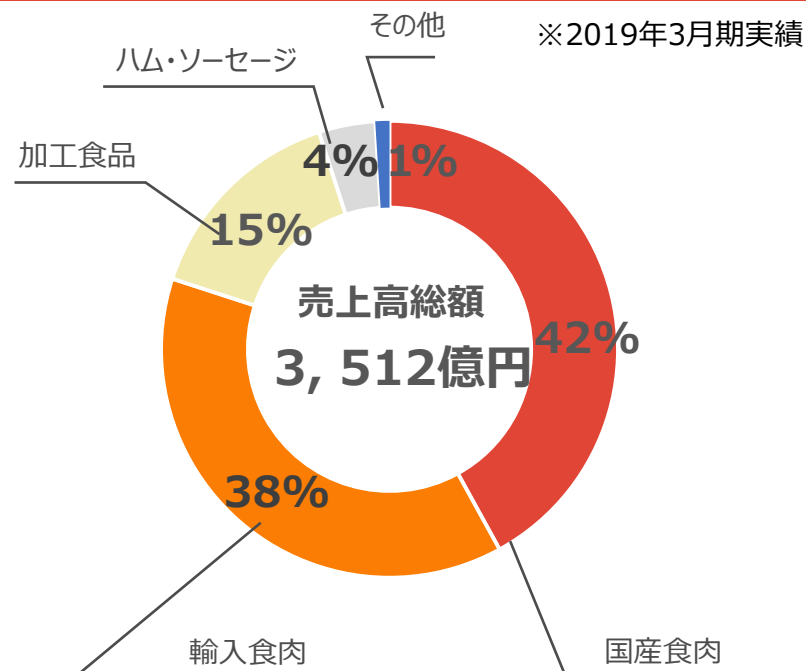
取引状況



生産者からお客様までのすべてに関わるトータルサプライチェーンを構築

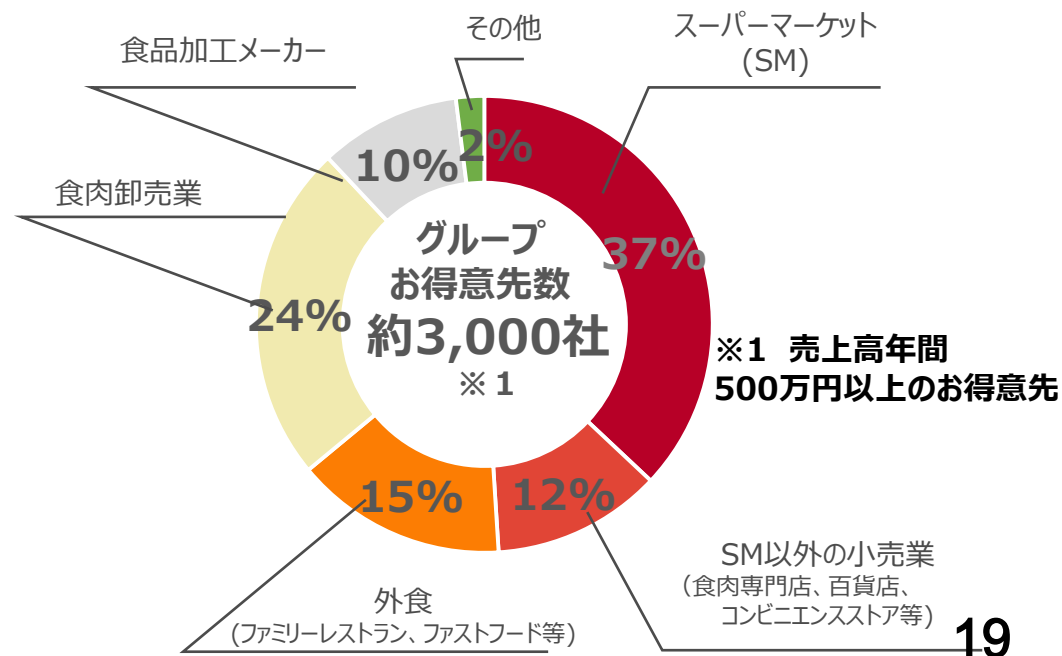
食肉に関しては、**日本有数**
豊富な商品力をもつ

品目別売上げ構成比



あらゆるチャネルに対応
大半が業務用商品

販売先構成比



売上高内訳＜2019年3月期 v s 2014年3月期＞



(単位：億円)	2014/3	2019/3	2014/3比 増減率
食 肉 ＜構成比＞	2,084 ＜81.2%＞	2,817 ＜80.2%＞	+35.2%
加 工 食 品 ＜構成比＞	321 ＜12.5%＞	511 ＜14.6%＞	+59.4%
ハ ム ・ ソ ー セ ー ジ ＜構成比＞	110 ＜4.3%＞	138 ＜3.9%＞	+25.5%
そ の 他	51	46	▲9.8%
計	2,566	3,512	+36.9%

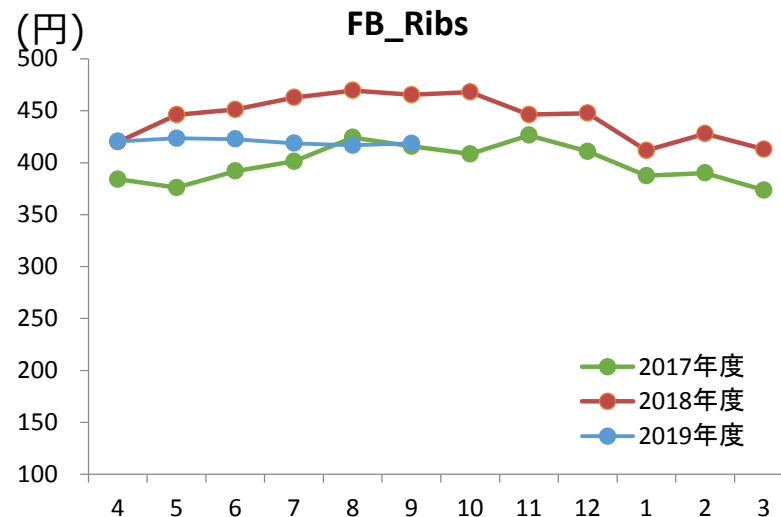
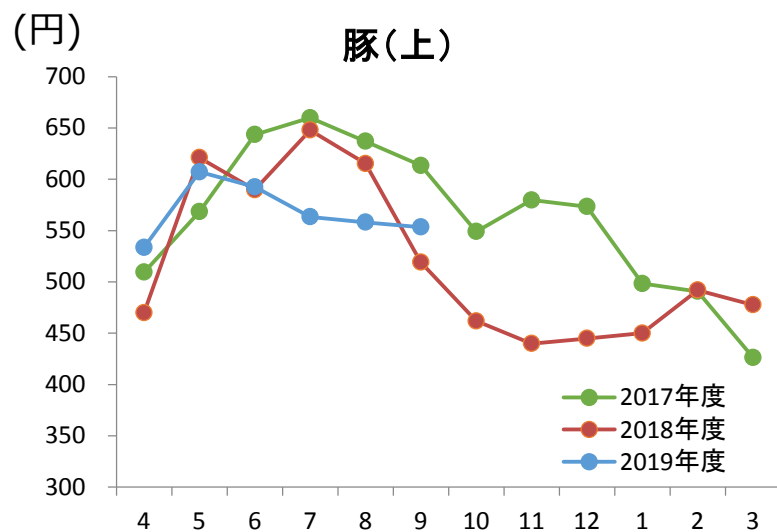
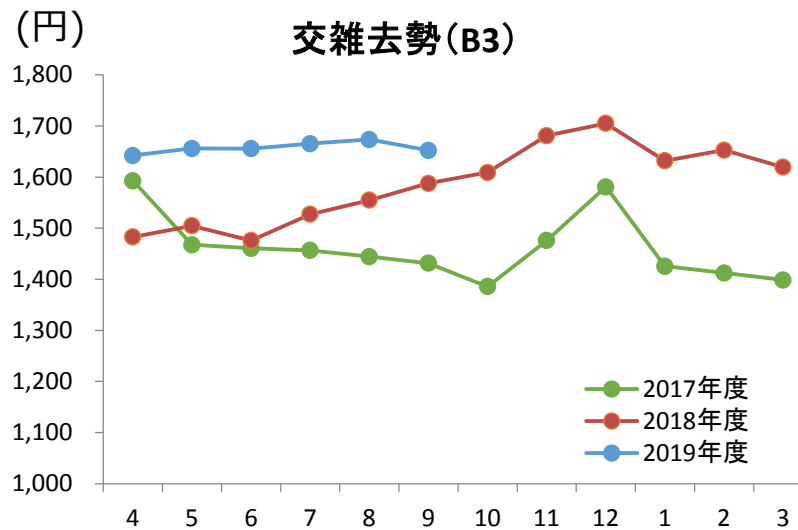
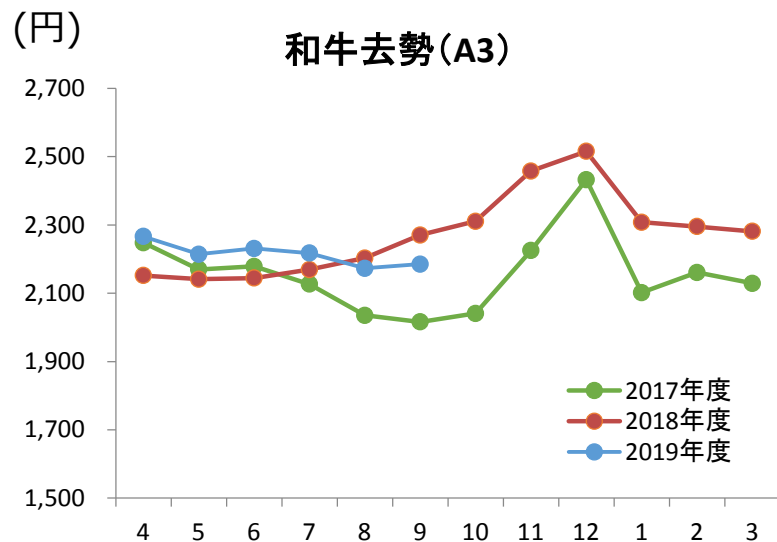
過去の業績推移



売上高・営業利益・経常利益

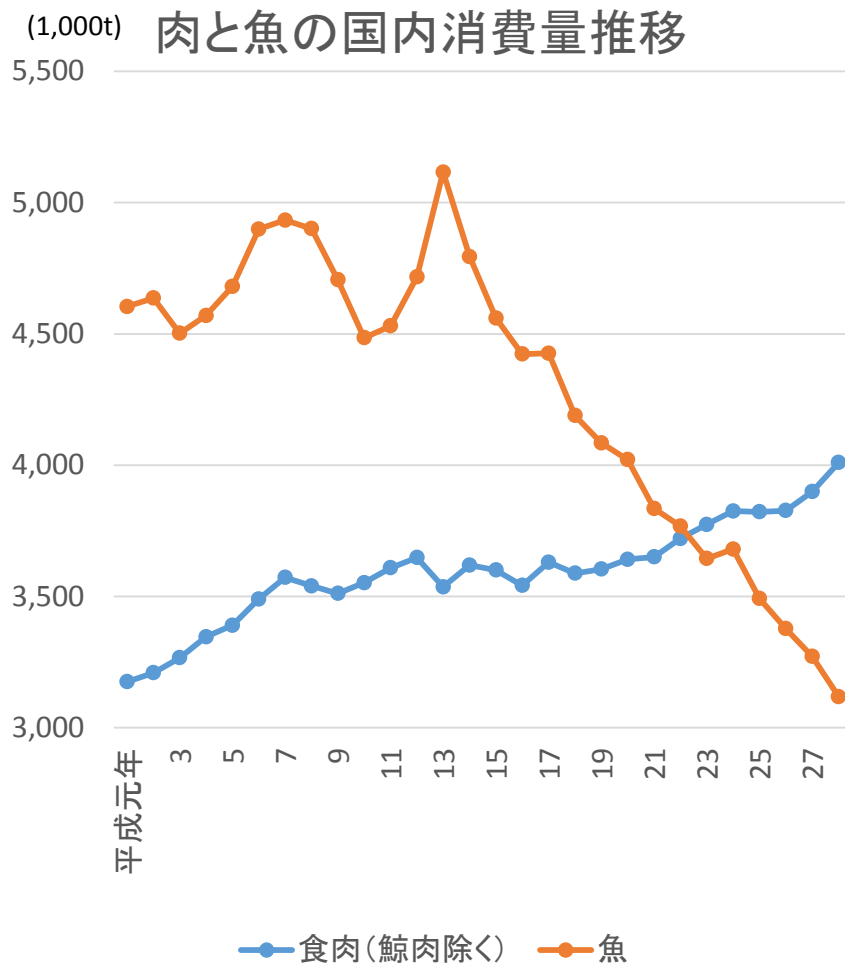


相場環境（牛仕入価格が上昇）

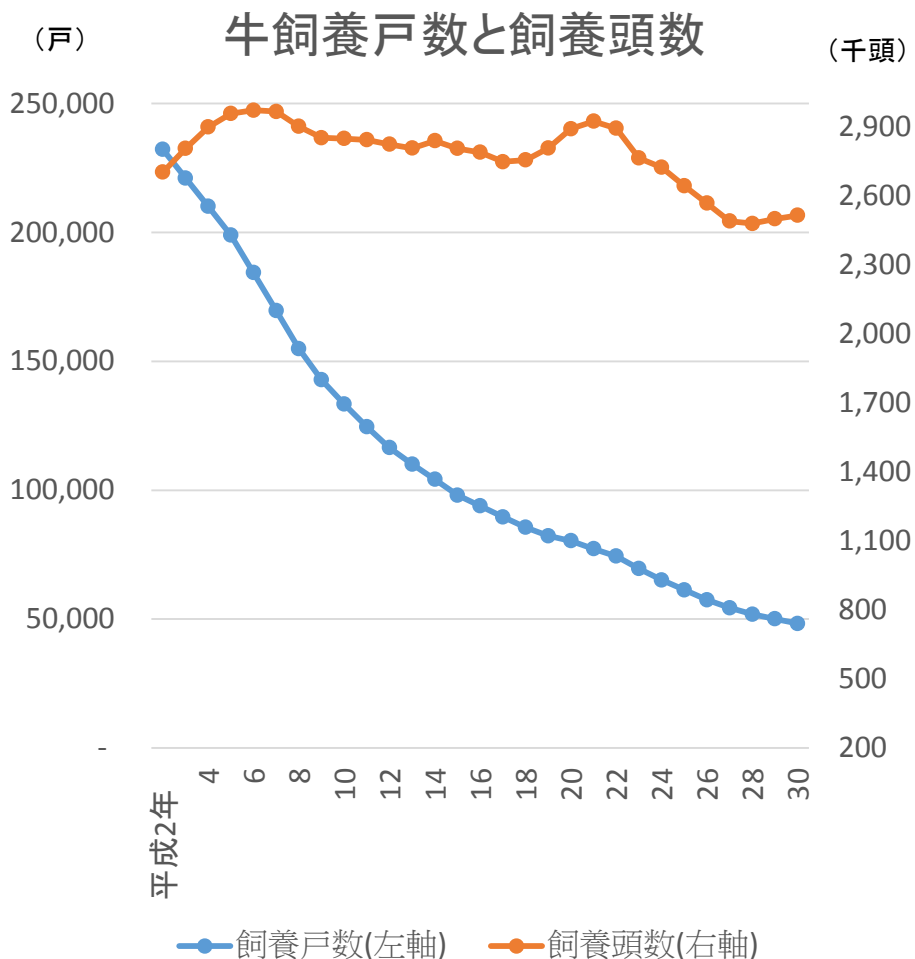


肉と魚の消費量推移、生産農家数

魚から肉へシフト、 **スターゼン**
一方調達が困難に



農林水産省:食料需給表より 純食料ベース

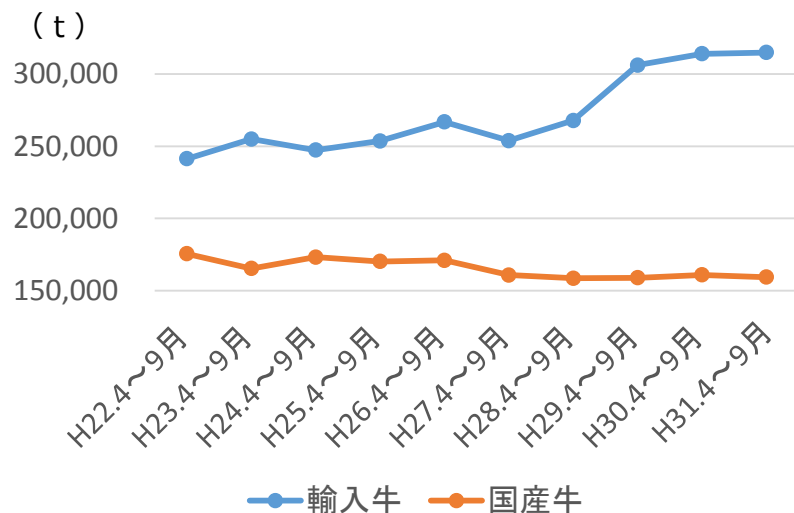


農畜産業振興機構:国内統計資料 肉用牛の飼養動向より

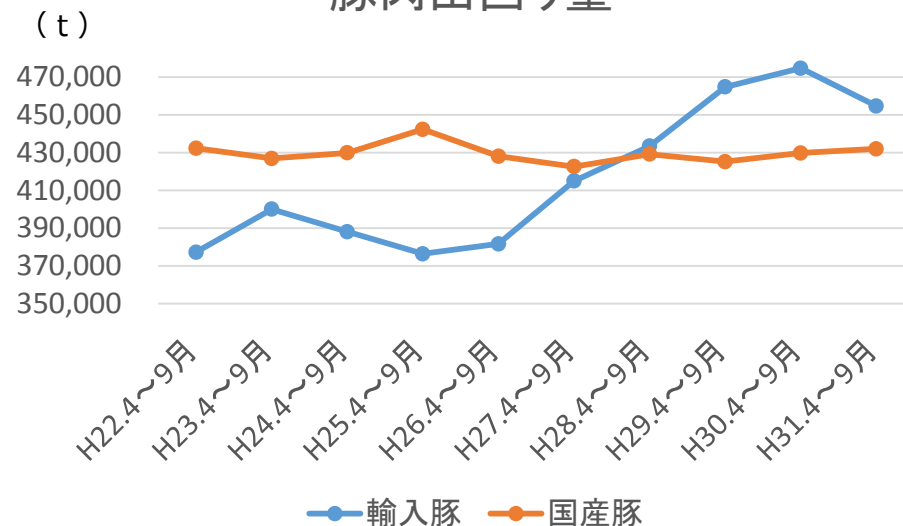
国内食肉流通量(10年間推移)

輸入シフトが鮮明  スターゼン

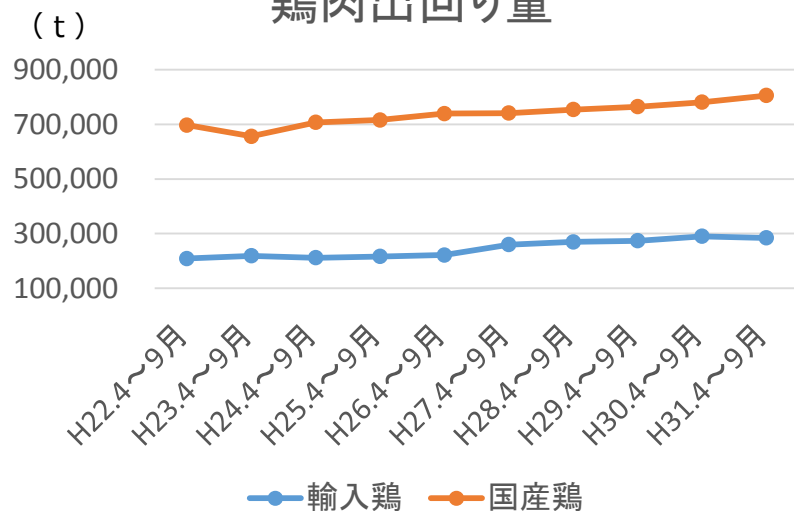
牛肉出回り量



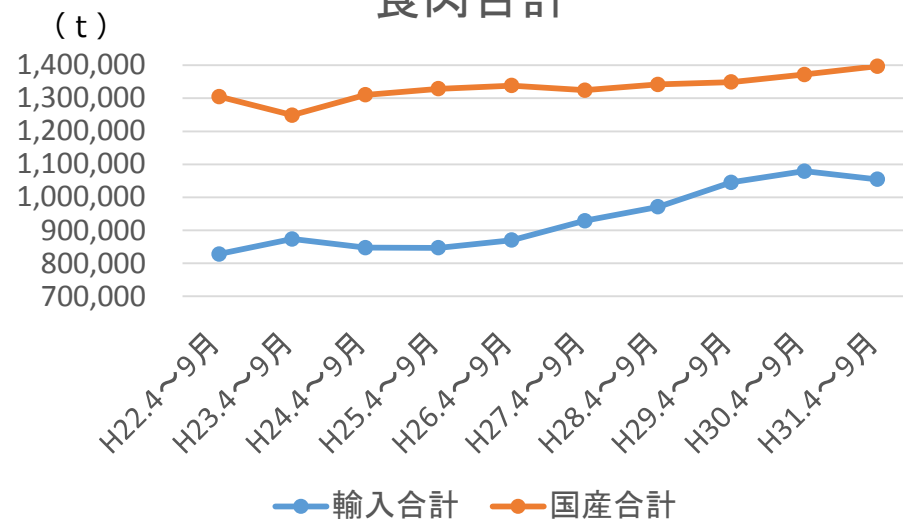
豚肉出回り量



鶏肉出回り量

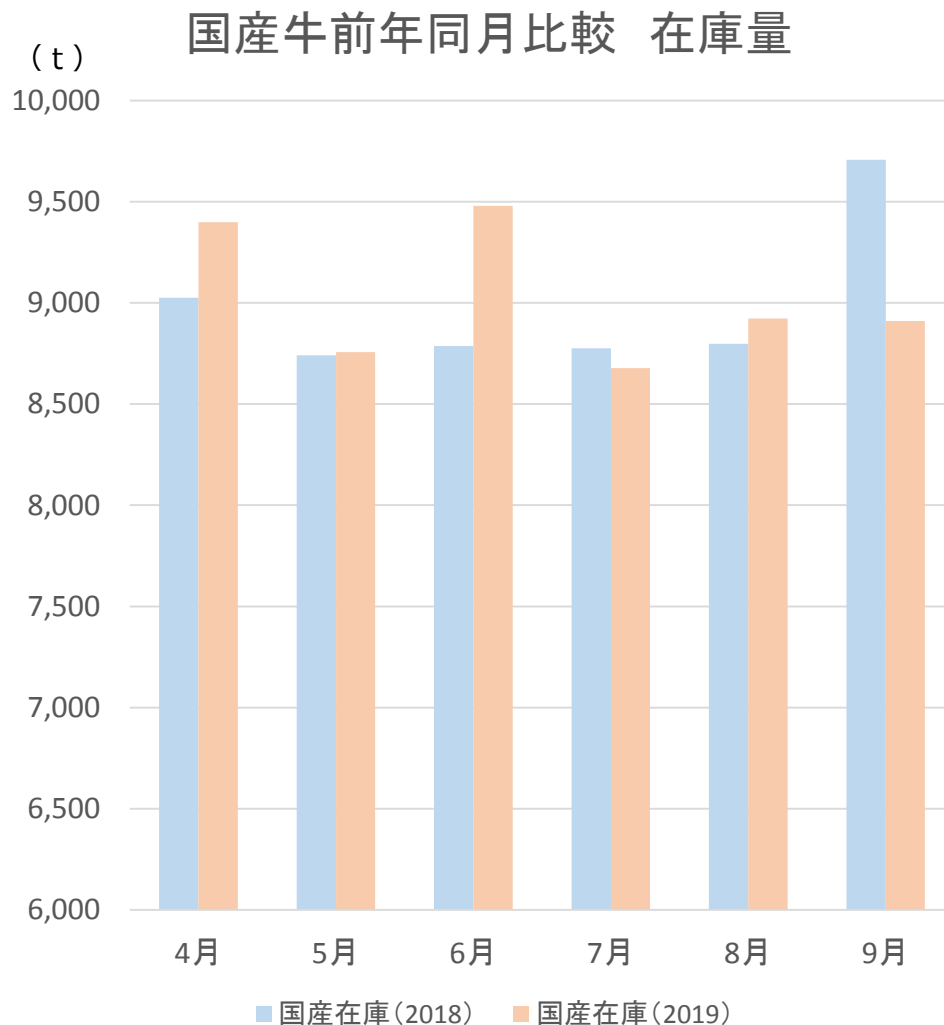
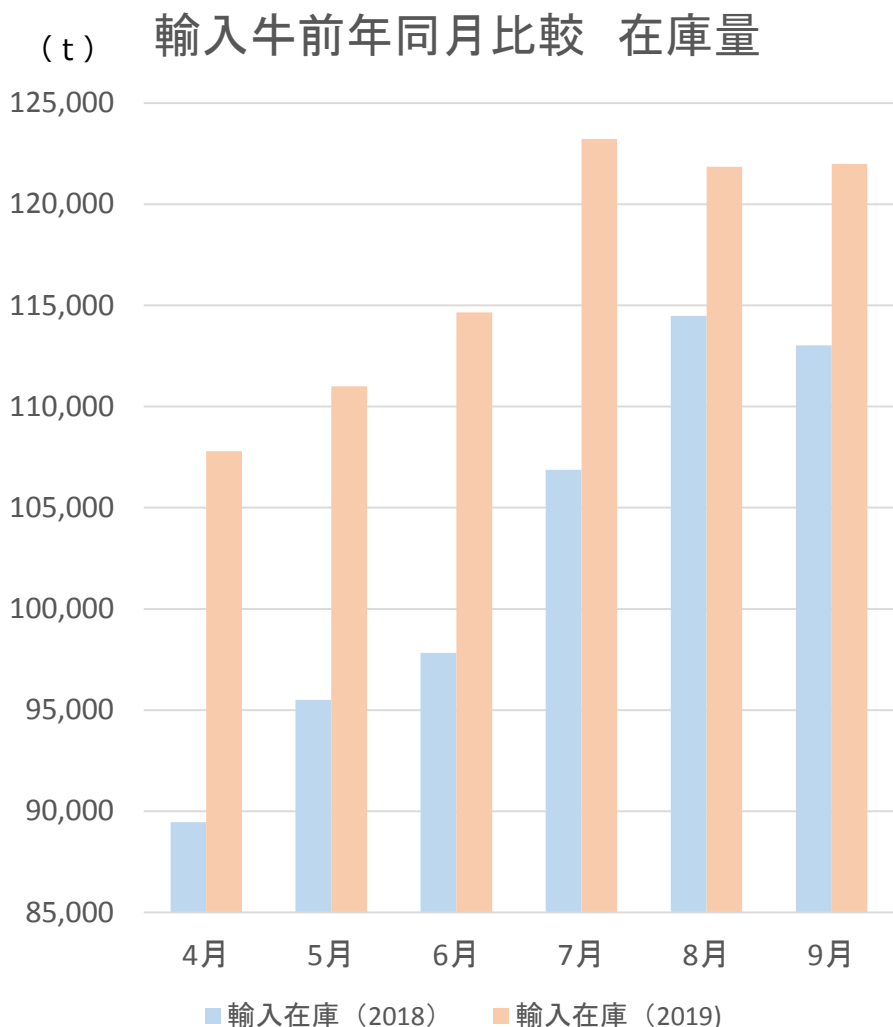


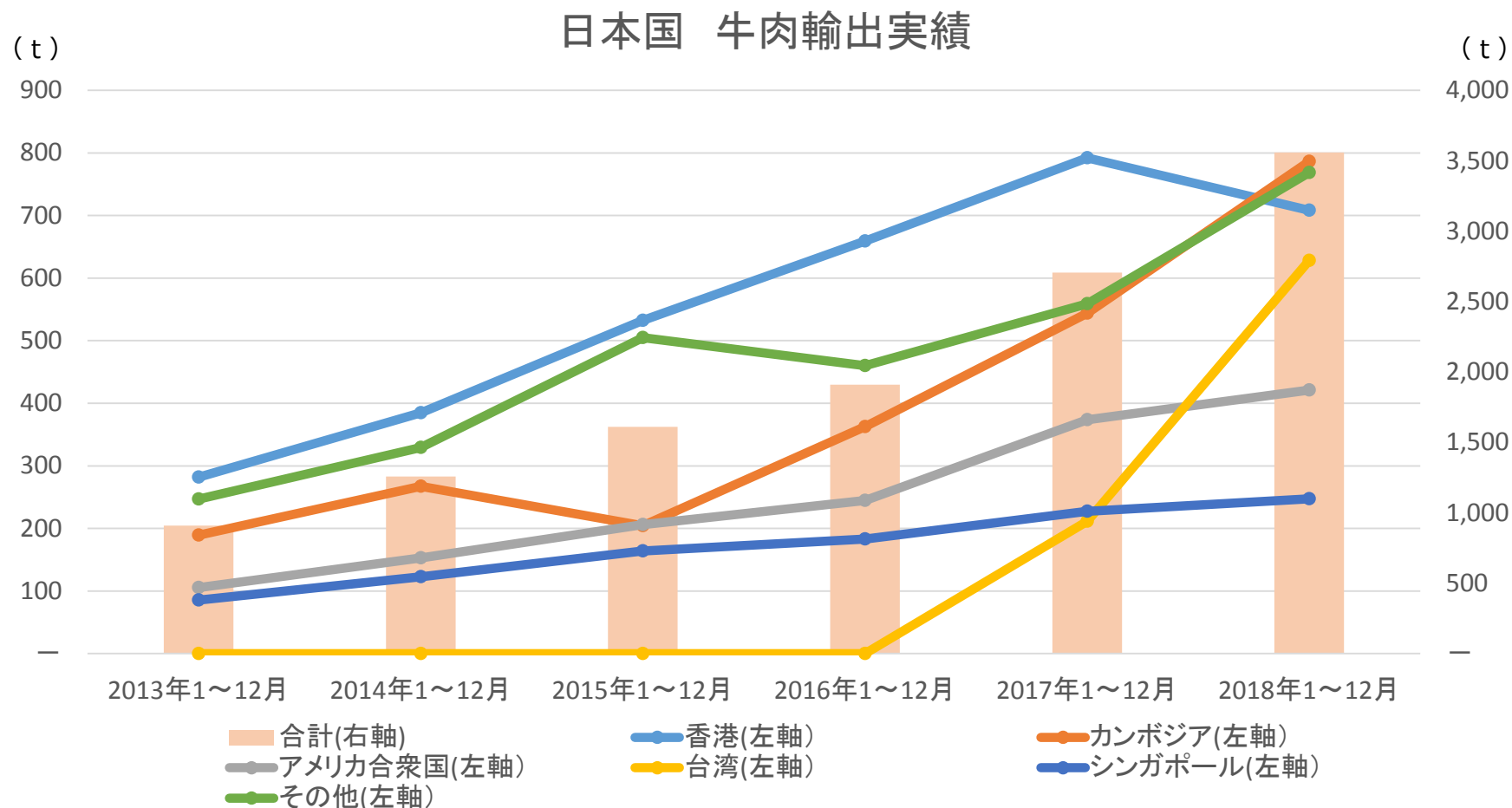
食肉合計



国内食肉在庫量(前年同月比)

輸入牛肉の余剰感あり。価格転嫁がさらに難しく





(参考)2018年4月～2019年3月の日本国全体の牛肉輸出実績は前年比+28.1%

農水省：農林水産物輸出入概況より

当資料は投資家の参考に資するため、スターゼン株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。記載内容は、2019年11月26日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。本発表にて提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みますが、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。